

CONFIDENTIAL
CONFIDENTIAL
CONFIDENTIAL

中国複合法律戦 戦略解析レポート

2026年1月16日・沖縄「グローバルサウスフォーラム」

分析対象：IMG_4387（新聞報道）
分類：タイプA（高度影響力工作）
警告レベル：核心的（CORE WARNING）



平和構築 対話と交流で

「ノーモア沖縄戦 命
どう案の会」（具志堅隆
松、与那覇慶子共同代表
ら）は15日、中国・上海
の華東師範大学などが主
催する国際学術交流協力
プラットフォーム「グロ
ーバルサウス学術フォー
ラム」（GSAF）の開
幕式に参観した。

台事をめぐる高市
早稲の発言により日
中間緊張が増す中、
近隣との対話や交流
により平和の構築を目指
す。新聞はGSAFを
はじめる機関などに所
属する人、辺野古新基
地適正化運動のミサイ
ル配備など軍事化が進む
沖縄の現状を指摘するた
め、日米を批判した。

「沖縄の米軍基地、抑圧の現れ」

同様の機嫌」をテーマと
した意見交換会で、GS
AF事務局長のシヨン・
ジュエ氏は「沖縄の米軍
基地は西洋の帝国主義に
よるグローバルサウスへ
の抑圧の最も顕著な表れ
だ」と語った。中国台湾
労働党国際部長のツアン
・ルー・シン氏、三大陸
社会研究所アジア共同コ
ーディネーターのアトゥ
ール・チャンドラ氏、チ
ヤク・ティン・クアン氏
が登壇した。沖縄県は、
与那覇、具志堅の両代表
のほか、又吉盛博（沖縄大
学教員）や上原賢一（琉
球大学教授）、日本国際
ボランティアセンター副
代表の谷山博史さん、「南
京・沖縄をむすぶ会」の
具志堅正二代表が出席し
た。

（慶田城七瀬）

中国研究者と市民団体意見交換

表面化する事象：市民交流という「平和の対話」

- 日時・場所: 13日、那覇市（県男女共同参画センター）。
- 参加者: 中国・上海の「グローバルサウス学術フォーラム (GSAF)」関係者ら12名、および「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」共同代表（具志堅隆松氏、与那覇恵子氏）ら。
- 主張された内容: 「平和構築」「対話と交流」
 - GSAF事務局長ショーン・ジュエ氏の発言: 「沖縄の米軍基地は西洋の帝国主義による抑圧の最も顕著な表れ」。
 - 台湾有事を巡る日中関係の緊張に対し、防衛強化を「戦争準備」と批判。



本質への洞察：高度に洗練された「影響力工作」



本会見は、単なる市民交流ではない。中国の「三戦（世論戦、心理戦、法律戦）」ドクトリンに基づき、沖縄を内部から無力化するための「複合法律戦（タイプA）」である。

1. 主権の形骸化：
中央政府を迂回し、地方自治体と直接連携する「準外交ルート」の確立。

2. 防衛意思の麻痺：
抑止力の強化を「歴史的トラウマ」と結びつけ、世論による拒否反応を誘発する。

3. 統一戦線工作：
「グローバルサウス」の文脈を利用し、日本を「抑圧者」として国際的に孤立させる。

中国の「三戦」ドクトリンの適用



世論戦 (Public Opinion Warfare)

- 地政学的野心を「反植民地主義」の正義として偽装。
- GSAF（学術機関）を隠れ蓑にし、プロパガンダを「客観的学術見解」として流布。



心理戦 (Psychological Warfare)

- 沖縄戦のトラウマを利用し、日本の防衛行動を「悲劇の再演」と定義。
- 国民の防衛意思を根底から麻痺させる恐怖の植え付け。



法律戦 (Legal Warfare)

- 地方自治の権限を拡大解釈させ、国の安全保障上の管轄権を制限。
- 「平和条例」制定などを誘導し、実質的な主権剥奪を狙う。

世論戦：「グローバルサウス」という連帯の偽装



心理戦：歴史的トラウマの政治利用

【メカニズム】

- ・論理：「防衛力強化（抑止力）」
＝「危険な軍国主義（悲劇への道）」
- ・手法：「極右台頭への懸念」や「悲しい歴史」を強調し、住民の恐怖心を煽る。

Trauma
トラウマ

Self-Defense
防衛

「日本の抑止力発動を国内世論によって麻痺させ、台湾有事発生時の迅速な意思決定を妨害することを目的としている。」

結果：住民の不安と不信感が増幅され、米軍基地の存在意義が内部から崩壊する。

法律戦：主権の形骸化と「準外交ルート」

日本国政府
(Tokyo)

【戦略】

- ・ 迂回：中国研究者が知事や市民団体と直接交流し、中央政府を無視する。
- ・ 錯覚：沖縄県が独自の外交ルートを持つかのような既成事実化。

中国
(China / GSAF)

Official
Diplomacy

Quasi-Diplomatic
Route

沖縄県
(Okinawa)

【危険性】

- ・ 沖縄県が「準外交主体」として機能し始め、国の統一的な外交・安保政策が破綻する。
- ・ 有事の際、地方自治体が国の防衛計画に反する行動（港湾使用拒否など）をとる法的・政治的土台が形成される。

沖縄主権剥奪への「因果の鎖」

Step 1:
接触と正当化

「学術交流」を名目に、中央政府の承認なしに政治プロセスへアクセス。

Step 2:
懸念の表明

日本の防衛政策を「極右」「軍国主義」とレッテル貼りし、正当性を奪う。

Step 3:
歴史の利用

「抑止力」を「抑圧」と変換。安全保障の決定権を感情論で無力化。

Step 4:
地方の抵抗

実質的な管轄権の剥奪。国の安全保障政策が地方の抵抗により実行不能となる。

統合リスク分析：国家安全保障への致命的影響

⚠ WARNING RISK: PARALYSIS

台湾有事への介入不能

世論的・政治的基盤の崩壊により、日本政府が迅速に米軍と連携・南西諸島を防衛することが困難になる。



運営能力を低



⚠ WARNING RISK: ISOLATION

国際的孤立

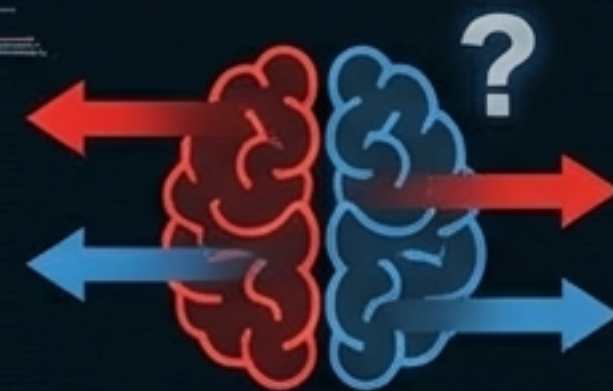
日本が「平和の敵」としてプロパガンダされ、対中抑止のための国際連携構築が困難になる。



⚠ WARNING RISK: DIVISION

国内分断の固定化

中国のナラティブが「多様な意見」としてリベラル層に浸透し、批判的検証が不可能になる。



対抗戦略：欺瞞を打ち破る「真のナラティブ」

Their Lie: 市民の対話



中国側団体は政府の意図を隠蔽した工作機関である。相互主義に基づき、中国国内の日本市民団体の自由な活動を要求する。

Our Truth: 「真の対話は透明性と相互主義に基づく」



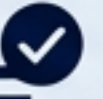
中国側団体は政府の意図を隠蔽した工作機関である。相互主義に基づき、中国国内での日本市民団体の自由な活動を要求する。

Their Lie: 防衛力強化は極右・軍国主義



現状変更を試みる権威主義国家への対応は、主権国家としての正当な権利である。

Our Truth: 「民主主義の防衛は極右ではない。主権の行使である」



現状変更を試みる権威主義国家への対応は、主権国家としての正当な権利である。

平和の定義権を取り戻す

「平和は力によって守られる」

沖縄戦の悲劇を繰り返さないためにこそ、抑止力は不可欠である。

地域の平和を脅かしているのは、日本の防衛努力ではなく、中国の軍事圧力である。

台湾海峡の平和と安定こそが、沖縄の「命どう宝」を守るための最前線である。

長期的戦略：沖縄を「民主主義の要石」へ

ナラティブの転換：「沖縄＝犠牲の島」から「沖縄＝民主主義と地域の安定を支える要石」へ。

信頼の再構築：防衛力強化は、沖縄住民の生命と財産を守るための国を挙げた投資である。



工作の透明化：中国の学術交流を「平和の仮面を被った影響力工作」として明確に定義・開示し、免疫をつける。

結論：平和の仮面を被った侵略を見抜く

認識こそが、最初の防衛ラインである。

「三戦」の意図を理解することで、その影響力は無力化される。

「沖縄の真の主権を守ることは、
日本の未来を守ることである。」